

〈あおぎん〉

積立投信サービス

インターネットでの
ご利用も可能です！



〈あおぎん〉の
積立投信サービスは

定期的(毎月・ボーナス時期)に
一定額(3,000円～)の投資信託を
自動的に購入できます！

プロが運用する「投資信託」を少額からご購入いただけます！

- 投資は金融資産を多くお持ちの方だけがするものではありません。あおぎんの積立投信サービスは、毎月3,000円からの少額投資を可能とします。
- 毎月の引き落としにすることで、面倒な注文手続きも必要ありません。
- 「長期」での資産形成を目指しているので、投資経験の少ない方でも「いつ買ったらいいのか?」「もうちょっと待つべきか」などの購入のタイミングで思い悩むことはありません。
- 投資信託は、投資に関する高度な知識や技術を持った運用のプロが、お客さまに代わって運用します。

毎月購入することで、時間分散によるリスク低減効果が期待できます！

ドルコスト平均法により、平均購入単価を引き下げる効果も期待できます！

- 安いときに買って高いときに売る。理想ではありますが、プロでもなかなかうまくできるものではありません。そこで、一定額を定期的に購入すると価格が安いときに多くを、価格が高いときに少しだけを購入できることから、平均購入単価を低く抑えることができるといわれています。

詳しくは中面および裏面をご覧ください。

0120-378689

詳しくは〈あおぎん〉窓口またはフリーダイヤルへ
受付時間/9:00~17:00(土・日・祝日を除きます)

商号等/株式会社青森銀行 登録金融機関 東北財務局長(登金)第1号 加入協会/日本証券業協会

未来からの、ありがとうのために。

 青森銀行

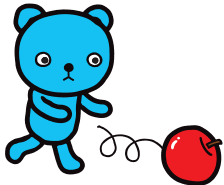
積立中に基準価額が変動したら…

Question

逆の値動きをする投資信託A・Bがあります。スタート時に一括で120万円を投資し、10年間運用した場合の結果は、Aは180万円、Bは60万円です。それぞれの投資信託に「毎月1万円×12カ月×10年」（投資額合計120万円）で投資した場合、運用結果が高くなるのはA・Bどちらでしょうか（経費等は考慮しません）。

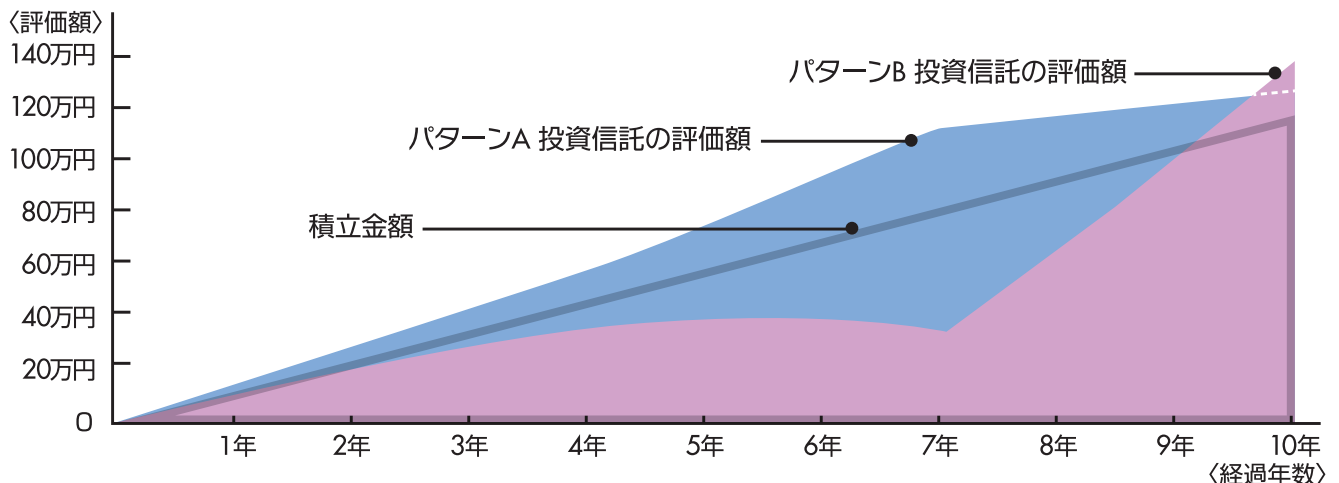
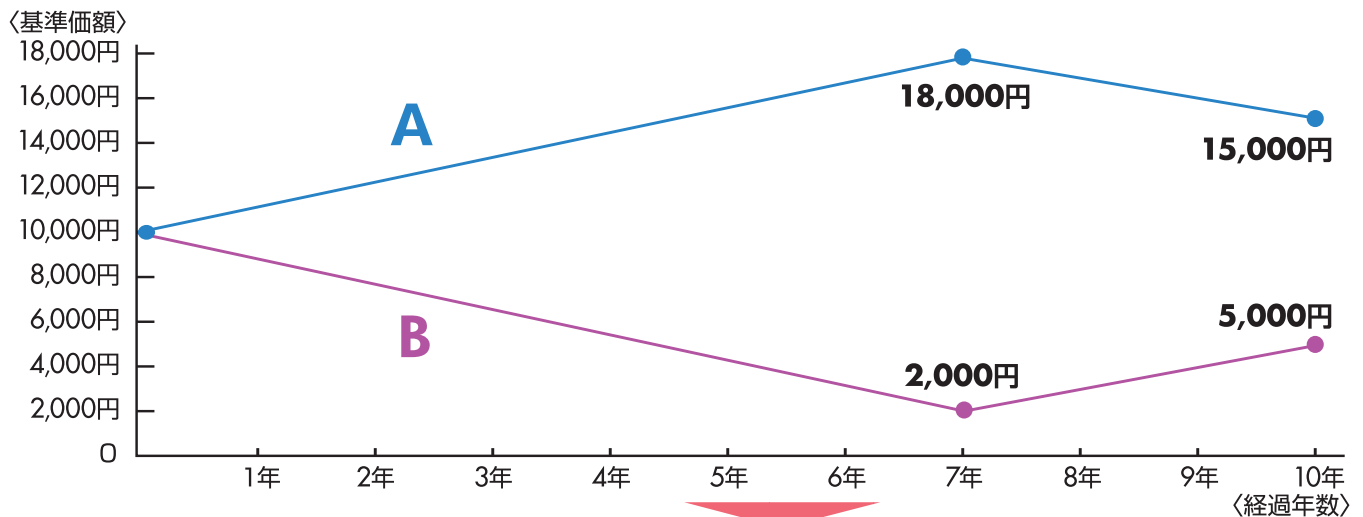
Answer

Aの運用結果…約126万円 (投資額の約105%) **Bの運用結果…約139万円** (投資額の約116%)



【解説】

- スタート時と10年後の基準価額を比較すると、Aは1.5倍、Bは半分です。しかし、積立投資の場合はBの値動きの方が良い結果となっています。
- Bの値動きの場合は、基準価額が下がったときに多くの口数を購入でき、その後、基準価額が上昇したことでAの値動きの場合に比べて良い結果となっています。



積立投資のポイント

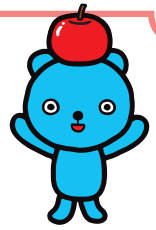
**10年後にスタート時より値下がりしても、
値上がりした場合より利益が出る場合もあります。**

値上がり時は平均取得価額が上がってしまうので、その後値下がりすると投資信託の評価額も下がってしまいます。一方、値下がり時には平均取得価額も下がりますので、その後値上がりした場合に有利になる場合があります。

※上記の投資例は一例であり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。

まとめ

積立投資は値動きに一喜一憂することなく、
財産形成を行える投資方法です。



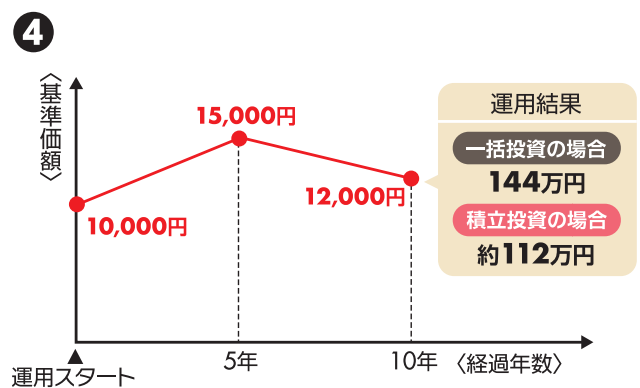
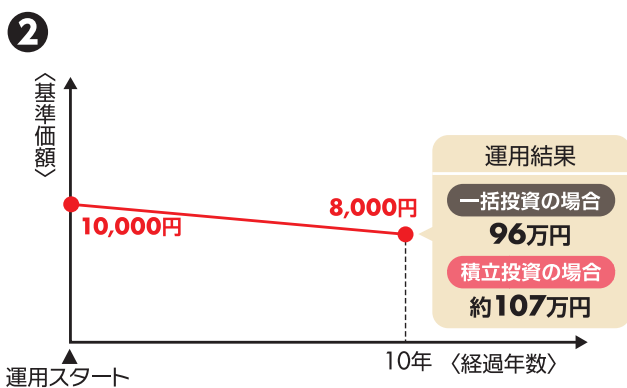
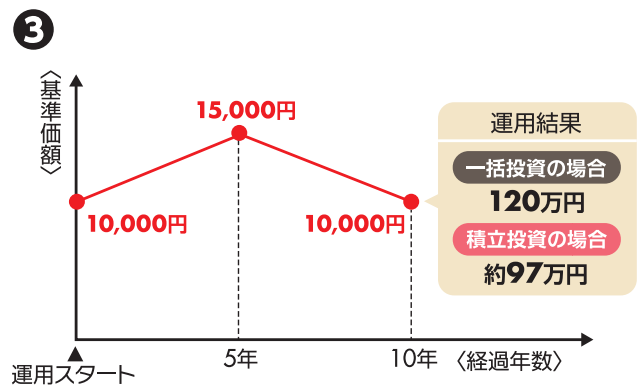
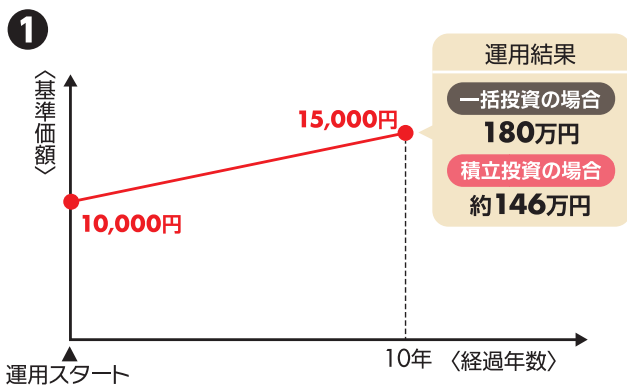
「一括投資」は一定の口数にまとめて投資し、値上がりをじっと待つ投資方法です。
一方、「積立投資」は口数を少しずつ増やしながら資産を育てていく投資方法です。両者を比較すると以下ようになります。

一括投資と積立投資の比較	一括投資	積立投資 (定時定額投資)
価額の値下がり	資産の減少	資産の減少+口数の大幅な増加
価額の値上がり	資産の増加	資産の増加+口数の小幅な増加
投資のタイミング	非常に重要	あまり重要ではない

ご注意

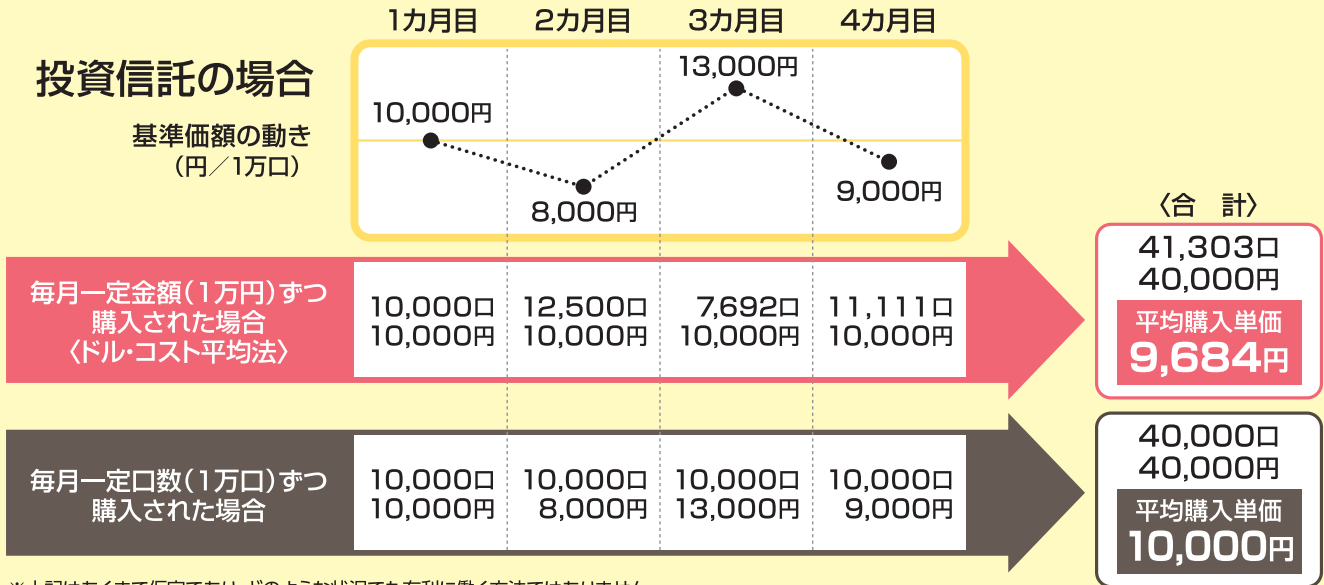
値動きによっては「積立投資」よりも「一括投資」のほうが結果的に有利だったということもあります。また、場合によっては、運用結果が、投資した元本を下回ってしまうケースもあるのでご注意ください。

例 一括投資は120万円を運用スタート時に投資、積立投資は月々1万円を10年間投資した場合



お客さまにあった資産形成を、あおぎんがお手伝いいたします。

●ドル・コスト平均法



※上記はあくまで仮定であり、どのような状況でも有利に働く方法ではありません。
また、単純化のために極端な値動きで説明しております。
※上記はあくまでも一例であり、リスクの低減をお約束するものではありません。
また、必ずしも全てのお客さまに最適とは限りませんので、ご自身の投資目的等を勘案し、投資のご判断はお客さまご自身で行ってください。

お取扱基準について

最低購入金額	毎月 3,000円(1,000円単位)
購入申込日	11日または26日より選択(銀行休業日の場合は翌営業日)
口座振替日	購入指定日の前営業日 ※ご購入代金の引落しは毎月のファンド購入申込日の前営業日となります。 ※ご購入代金の引落口座は投資信託口座開設時にお届けいただいている指定預金口座となります。
対象商品	累積投資型の全ファンド ※販売停止ファンドを除きます。
ボーナス時の購入	年2回まで購入金額を増額できます。
購入開始月	<p>店頭の場合 銘柄購入日の4営業日前の14:30までのお申込の場合は当月、それ以降は翌月から積立開始となります。</p> <p>インターネットの場合 銘柄購入日の4営業日前の14:00までのお申込の場合は当月、それ以降は翌月から積立開始となります。</p> <p>※「銘柄購入日」とは、実際にご指定の銘柄を購入する日を指します。</p>
その他	店頭でのお申込み以外にインターネット投資信託サービスでのご利用も可能ですが、購入時の販売手数料は店頭と同額となります(30%割引とはなりません)。なお、販売手数料がかからない商品もございます。 毎月購入の都度、取引報告書の作成、発送はいたしません。 お取引の内容は3か月ごとの「取引残高報告書」にてご確認ください。

投資信託についてご確認ください

- ◎投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象になりません。また、銀行で取り扱う投資信託は投資者保護基金の対象とはなりません。
- ◎投資信託は、元本および分配金が保証されている商品ではなく、市場環境により変動し、投資元本を割り込むことがあります。
- ◎投資信託の運用による損益は、投資信託をご購入されたお客さまに帰属します。
- ◎投資信託は手数料などをお客さまにご負担いただきます。ご購入にあたっては、各商品の目論見書、投資信託説明書(交付目論見書)補完書面を十分ご確認ください。

(2020年12月)